

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100026		
法人名	株式会社 シェイクハンズ		
事業所名	グループホーム 清水の里		
所在地	〒815-0031 福岡県福岡市南区清水3丁目5番13号 092-551-0008		
自己評価作成日	平成25年08月01日	評価結果確定日	平成25年09月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆さんが、健康で楽しく、生きがいのある生活ができ、ご家族にとってもいつでも安心できる暖かい家庭的なグループホームを目指します。の理念のもとに、特に家庭的な雰囲気を出し、利用者の方一人一人の個性を大事にし職員と利用者、ご家族が強い信頼関係で結ばれている所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡市郊外の住宅地の中に、2階建ての女子寮を改築した、家庭的な雰囲気のグループホーム清水の里がある。隣接地に保育園があり、園児の登園を見守りながら、利用者的一天が始まっている。自治会に加入し、利用者と職員は、清掃活動や町内行事に参加し、ホームの敬老会や夏祭りに地域の方が参加し、交流の輪が広がっている。保育園児達の、子供神輿の訪問や、歌や踊り等の披露があり、利用者の楽しいひと時となっている。また、運営推進会議後の家族会は、7～8名の家族が参加し、充実した会議と同時に、家族同士の交流も始まっている。職員は、利用者の「自己選択」「自己決定」を大切にし、利用者一人ひとりの残存能力を活かした暮らしの中で、自立支援に向けて取り組み、紙オムツから布パンツに変更する等、利用者の、自信回復に繋がる支援に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成25年08月29日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が、理念に基づいた介護に取り組み、利用者の方々の日々の変化を共有し、適切な配慮が出来るように、毎月スタッフ会議を開催(職員全員参加)。また連絡ノート、介護記録、伝言等で取り組んでいる。	利用者や家族が、いつでも安心出来る温かい家庭的なグループホームを目指し、7年前に寮を改築して作ったホームである。代表の介護に対する熱い思いを職員全員が理解し、常に理念を意識して、利用者が、健康で楽しく、生きがいのある生活を支援している。家族面会時に、どの職員でも対応出来るように、職員間で共通意識を持ち、日々のケアに励んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の諸会社とのお付き合い。(ホームで必要なときは、近隣の会社を利用し協力しています。) 保育園との交流。自治会の廃品回収の協力。自治会のふれあいサロンとの交流。	自治会に加入し、地域の廃品回収やふれあいサロンに参加し、交流を深めている。自治会長が利用者を理解し、避難訓練時には積極的に参加して下さる等協力的である。ホームの敬老会や祭りに、近所の保育園児の訪問があり、利用者と一緒にゲームや歌を歌ったり、楽しい時間を過ごし、散歩時にはホームの前で、「おばあちゃん、おじいちゃん」と声を掛けてくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度の運営推進会議や町内会への参加等を通じて認知症の方の理解や支援の方法を活かしています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価が毎年行われていますが、その都度評価への取り組みや、報告を行っています。	会議は、家族、地域代表、民生委員、地域包括支援センター職員が出席し、2ヶ月毎に開催している。ホームの現状や課題等を報告し、参加委員から積極的に意見が出され、和気藹々とした雰囲気の中で、参加委員が開催を楽しみにする会議となっている。行政担当職員にも、毎回案内状と議事録を送付し、年に1回は会議に出席し、情報の共有に努めている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターと常に連絡を取り合い、施設の取り組みを説明したり、包括支援センターの取り組みも地域の方に話しています。	ホームの現況や困難事例を、行政窓口に出向き相談し、地域包括支援センターに疑問点を尋ねる等して、行政と連携を図っている。また、独居老人の安否について確認していくこと等を今後の検討課題とし、行政との協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したり、内部研修を開き勉強をおこなっています。利用者の方の怪我等のよりどうしようもない場合は、拘束廃止委員会を開催し、又御家族にも説明し同意を得ておこなう場合もありますが、なるべくしないように努力しています。玄関の鍵は、夜間以外は、常に開けています。	外部や内部の研修会に職員が参加し、身体拘束が利用者にも与える影響を理解し、身体拘束廃止委員会の中で事例を検証し、職員全員が身体拘束廃止に向けた介護の実践に取り組んでいる。また、玄関の鍵は日中は開放し、自由に利用者が出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての外部研修への参加や、内部研修を行い、常日頃から注意を払い虐待がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援しています。	現在、成年後見制度を活用している利用者が1名いる事から、実務を通して制度について学ぶ機会がある。資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が制度を必要とする時は、利用者の財産や権利を守る方法を説明し、申請書を用意し、関係機関へ橋渡しの出来る体制を整えている。また、管理者は外部研修を受講し、内部の勉強会で全職員に伝え、制度について周知を図っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に明示している。又家族との面談は重要視して充分におこなっています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関のロビー設置している。又日々の生活の中で、不満意見、苦情を聞き、日頃の運営に反映するようにしています。	玄関に意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示し、利用者や家族が、いつでもホームに要望を伝える事が出来る支援に取り組んでいる。家族面会や行事の時に声を掛け、意見や要望を聴いている。2ヶ月毎に開催する家族会には多くの家族の参加があり、家族だけで話し合う時間を作る等、家族同士、家族とホームとの信頼関係が深まっている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々ありますが、月に1度のスタッフ会議には、全員参加し納得いくまで話し合い、職員の提案に耳に傾け改善出来る事は受け入れお互いに理解しています。	毎月第3土曜日に、職員全員が参加し、スタッフ会議を開催している。2時間の中で、運営や業務、利用者についてのカンファレンスを含めて話し合い、活発に意見交換し、充実した会議となっている。出された意見は検討し、出来るだけ運営に反映出来るように努めている。また、会議の日には、食事をしながらの親睦の機会にもなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の話に耳を傾け、努力しています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたっては本人の人柄次第です。当事業所には、60歳過ぎた職員も多くいます。又介護に関する資格を取得した職員には(非常勤であっても)資格手当てを出して励まし認めています。	職員の採用にあたっては、やる気と人柄を重視している。職員のロッカーや休憩室を用意し、休憩時間を確保して、希望休や勤務体制にも柔軟に配慮する等、代表者が、職員の働く環境作りにも力を入れているため、職員の異動はほとんどない。また、資格取得や外部研修受講についても、バックアップ体制を整え、職員が意欲的に仕事出来る事業所である。また、年に1回2班に分かれて社員旅行に出かけ、リフレッシュしている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や、内部研修を行っています。又毎月のスタッフ会議にて人権、人間の尊厳について話し合いをおこない、申し送りノートでも伝えていっている。	外部の人権研修には、職員が交代で参加するようにしている。職員全員が、利用者の人権を尊重した介護の在り方を理解し、尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。「寝ときたい」と言われる利用者には横になってもらう等、出来るだけ利用者の思いを一番に尊重したケアに努めている。また、職員は利用者を、経験豊富な人生の先輩として敬い、常に学ぶ姿勢を忘れずに、利用者との信頼関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を事務所に置き研修への参加を進めています。又研修への参加の際には、日々の人材配置にも考慮しています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学、電話、メールでの相談しています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談に見えられた時や、電話がかかってきた時に困っている事や、不安な事を相手の立場に立って考え、それを支え、援助していく方法を説明しています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の家に訪問したり、施設に訪問された時などによく話を聞き、支援していく方法を説明し安心していただくようにしています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相互理解が出来るまでしっかり話し合いをおこない、又サービスについてや介護全般についても助言しています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や、後片付け、洗濯物干しやたたみ、自室の掃除や手すりふき、庭の掃除や草取り等を利用者と一緒にこなっている。そんな中利用者の方から昔の知恵等を教わる事があります。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事の時等に食事介助やトイレ誘導、病院受診の同行等ををおこなって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく途切れないように支援しています。	利用者の友人、知人、親戚等の面会があり、いつでも歓迎し、又来て頂けるよう働きかけている。冠婚葬祭や地域の行事に、家族の協力を得て参加する等、利用者の馴染みの人や場所との関係継続に取り組んでいる。また、代表の友人が育てているセラピー犬の来訪や、元職員によるひょっとこ踊りの披露、誕生会にはフラダンスの慰問等、多彩なボランティアの方々とも馴染みの関係になっている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話題やゲームを提供し、役割や作業を通して、お互いに関り支え合うように努めています。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても、その施設に面会に行ったり、電話等で常に連絡を取っています。又その家族の方とも連絡を取り合っています。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情の中から御本人の暮らし方や意向希望等を汲みとり個々に合わせた対応をおこなっています。	「今日はちょっと顔色がおかしい」「元気がない」等、ベテラン職員の観察による気づきが多くあり、管理者、看護師に報告されている。異動が少ないため、担当職員以外でも利用者の入居時からの状態を把握しており、利用者が今何をしたいのか、何を食べたいのか等を理解し、今後、利用者の重度化が進み、意向表出が困難になった場合にも、利用者の思いに近づける事が出来る環境である。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや、生い立ちを把握し、重ねて日常の生活の中で、御家族や御本人から生活歴、暮らし方を伺っています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人、1人の能力を把握し、その日の体調や気分に合わせて職員は対応しています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人と日常的に話し合い、御家族とは面会時や電話等で話をし医師とは往診時や受診した際に意見を聞き、作成しています。	介護計画は、利用者との会話の中から本音を聞き出し、家族面会時に意向を聴いて、主治医の意見を参考にしながら、3ヶ月毎に作成している。毎月のスタッフ会議の中で、現状に即した介護計画であるか、見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事を介護記録に記入しています。実践チェック表に記入し、必要に応じて口頭やスタッフノートを通して情報交換をしている。又毎月のスタッフ会議で介護の見直しを必ずおこなっています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事や外出の際には、御家族や近隣のボランティアの方々に協力を頂いています。学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬、近隣の保育園児との交流等を支援しています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生による音楽療法、フラダンス、セラピー犬等によるボランティアの支援。地域サロンとの交流。消防署との連携による避難訓練。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族と話し合い協力医療機関を決定しています。又必要に応じて御家族が希望するかかりつけ医を受診しています。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医の受診支援を行っている。8月から、24時間体制の訪問診療体制を整え、協力医療機関の隔週毎の往診がある。看護師の資格を持つ職員と介護職員の連携で、利用者の状態観察を行い、早期発見に繋げている。現在、8名の利用者が訪問診療を受け、1名が家族が同行しての受診となっているが、いずれの場合も密に情報交換を行い、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が日常の健康管理をおこなっています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の方が入院した際には、毎日のようにお見舞いに伺う。入院した病院の担当医と相談し、なるべく短期で退院して頂く。その後は当施設で対応するようにしています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会や面会時の度に重度化、終末期のあり方について話し合いを重ねている。又かかりつけ医にも往診の際に相談しスタッフ会議で方針を共有しています。	重度化や終末期の対応についての指針を作成し、契約時に利用者や家族に説明し、理解を得ているが、利用者の重度化に伴い、面会時や家族会の中で何度も話し合いを行っている。現在までホームでの看取りの経験は無いが、利用者、家族の希望を聴いて、出来るだけ思いに添えるよう、関係者で話し合いを重ねながら取り組んでいく事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の方の急変時の連絡体制を作成し、施設長、管理者看護師は、いつでもかけつけて対応出来るようにしている。急変、事故発生時には、スタッフ会議で話し合っています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	情報誌(清水の里だより)にて、利用者の顔写真、年齢を入れ、どのような方々がこの施設で暮している方をお知らせし、災害時の協力を依頼しています。(利用者の方々の個人情報載せる事については御本人、御家族には同意を得ています。)	年2回、昼夜を想定した避難訓練を、消防団や地域住民の参加を得て実施し、通報装置やスプリンクラーも設置している。避難時の見守りは地域の方にお願ひし、地域との連携もしっかり取れている。2階の利用者の避難方法を検討し、特に夜勤者が的確な判断が出来るよう繰り返し訓練している。また、電気、水道、ガス等が、使用出来ない非常災害に備え、非常食や飲料水の準備もある。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重と利用者のプライバシーを大切にできるようにスタッフ会議日々の職務時でも職員の意志の統一をはかり、記録上でも常に心がけています。	職員は、利用者と家族のような親しい関係であるが、言葉掛けは敬語を使い、皆の前では言わない等、利用者のプライドや羞恥心に配慮した支援をしている。また、個人記録の保管には注意を払い、職員の守秘義務については、常に代表が話をし、徹底が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方の会話には常に耳を傾けています。又話がしやすいような雰囲気作りをおこない利用者の方の意見を常に尊重しています。認知症な為利用者の方々の思いを計る為にセンター方式を活用しています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の日々の暮らしに支障のない範囲で、出来る限り利用者の方のペースに合わせて過ごして頂ける様に心掛けています。但し利用者の方の体力低下等によりどうしてもない場合は、職員が状況に応じて声掛けをおこなっています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様や御家族の方とも十分に話し合いをおこない支援しています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方に何が食べたいかを尋ねたり、野菜を切ったり、洗ったりして頂いています。準備や後片付けも職員と一緒に出来る範囲でおこなってもらっています。季節を感じられるメニューを取り入れています。	外部評価の結果を受けて、「利用者のために」という思いから、職員が手作りの食事作りに挑戦している。日常の会話の中から利用者の食べたい物を聞き取り、ホームで採れたゴーヤやトマトを採り入れた美味しい食事を提供している。利用者の残存能力やその日の気分に合わせ、野菜洗いや、下拵え、配膳、後片付け等手伝ってもらっている。家族からも、「本当に美味しい食事を頂いている」と感謝されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養やカロリーを考え、利用者の方々の好みを取り入れた献立を考え、利用者の方々に合わせて形態を変えて提供しています。水分については、食事中や10時、15時のおやつで補っています。入浴後にも必ず水分を取ってもらっています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨き、義歯の方は義歯をはずして頂き洗浄をおこなっています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の方のパターンに合わせて声掛けや誘導をおこなっています。健康管理の為に排泄のチェックもおこなっています。	職員は、利用者の状況(布パンツ、リハビリパンツ、紙おむつ)や、習慣、排泄パターンを把握し、早めの声掛けや誘導で、失敗の少ないトイレでの排泄の支援をしている。また、1階の廊下を何周も歩いたり、階段を使って2階の居室への移動等、下肢筋力の強化を意識してリハビリを実施し、寝たきりの方や車椅子の方が立位がとれるようになる等、排泄の自立に向けた積極的な取り組みを行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食物の提供や、毎朝のヨーグルトの提供をおこなっている。又体操、歩行運動、お腹のマッサージ等を日々おこなっています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、入浴担当は決めてはいますが、状況に応じていつでも入っていただけるようにしています。	入浴は日時を決めているが、利用者の希望を優先し、毎日の入浴も可能で、広い清潔な浴室での1対1の入浴の時間は、利用者と職員がゆっくり話ができ、本音を聴き出せる大切な機会と捉えている。また、お風呂嫌いな利用者に対しては無理強いせず、タイミングをみて声掛けし、利用者に入浴して頂けるように努力している。入浴による疲労も大きいので、シャワー浴等も採り入れ、一人ひとりの状態に合わせた入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、昼寝の時間を設けています。但し寝たくないと言う利用者の方は、無理に寝てもらわずに自由に過ごして頂いています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方々が服薬している薬の作用や副作用を十分に理解しています。又与薬時にも日付と名前を確認して与薬しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々の個々の能力に合わせてゲーム、散歩、外出、行事をおこなっています。又、出来る事はなるべく手をかさずに見守っています。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の方々にいきたい所を伺い、又御家族にも相談し、なるべく希望に沿うようにしています。食堂の横のウッドデッキを活用し季節を感じていただいています。	近くの公園まで散歩したり、車椅子の方も庭に出て、季節毎に咲く花を眺めながら過ごしている。ウッドデッキでお茶を飲んだり新聞を読む事も利用者の楽しみである。福岡タワーや国立博物館等、普段行けない場所にも積極的に出かけ、利用者の気分転換を図り、生き生きとした暮らしに繋げている。また、買い物好きの利用者には、「一緒に買い物に行こう」と声掛けし、個別の外出支援にも取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方々の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望に沿えるように支援をおこなっています。電話でのやりとりが多いです。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	娯楽室、食堂等日当たりの良い空間が多く、常に季節感を味あう事が出来ています。又食堂横にウッドデッキを作りより一層季節感を味あう事が出来ています。又娯楽室には、利用者の方で作成したカレンダーを貼り月がわかるようにしています。	寮を改築した2階建てのホームの屋内は、玄関の靴箱や土壁、クロスを張り替え、掲示板を新しく設置し、写真をたくさん貼り、利用者の明るい笑顔の写真から、ホームでの楽しい暮らしが窺え、家庭的な温かい雰囲気である。また、少しずつ改装を重ね、利用者が安心して安全に居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室にて利用者の方々が、思い思いに話をされたり、テレビを見たり、塗り絵や箱作りをされたり自由に過ごされていらっしゃる。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人、御家族と十分に話し合い、御本人が使用されていた家具を置いたり危険のないように配置したりしています。	畳敷きの居室に介護用ベッドを設置し、家族と相談して、出来るだけ利用者が利用していた物を持って来てもらうようにお話ししている。布団、仏壇、家族の写真等をレイアウトして、利用者が自宅のような感覚で穏やかに暮らせるように、その人らしい部屋作りを支援している。また、週に1、2回利用者と一緒に掃除をして、清潔感溢れる居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的には利用者の方の行動の自由は尊重するようにしていますが、利用者の方々の体調等を見て職員が見守りや声掛けをおこなっています。		